

題目 社会的階層構造の文化差の社会生態学的検討 —Prestige と雇用流動性の関連—

氏名 橋本健太郎

指導教員 結城雅樹

集団メンバーの地位による垂直的構造である社会的階層構造は、それを取り巻く社会環境の違いによってどのように質的に異なるのだろうか。本研究で取り上げる、二経路モデル (Dual-pathway model) について、先行研究では、誇り感情の分類やタスクの成績に応じたの周囲からの評価による影響は示されているが、社会環境による違いによる検討は十分に行われていない。そのため本研究では、労働市場の流動性の高低とそれにより生じる適応課題によって Prestige によるリーダーシップの生じやすさを検討することで、社会環境を要因とする階級構造の質的違いの検証を試みる。本研究では、社会生態心理学の中でも、特に対人関係の流動性の理論を用いる。これは、流動性の高低の差により異なる適応課題から、特定の心理傾向や行動パターンを促進する誘因構造ができるというものだ。これを労働市場の流動性に適用し、労働者と企業の関係性をもとに Prestige によるリーダーシップとの関連をみる。具体的には、労働者と企業はそれぞれ別々に、労働市場の流動性の高低により異なる適応課題を持ち、その適応課題によって生じる誘因構造によって労働者がとる行動や企業が設計する制度により、Prestige ステータスに基づくリーダーシップが発生しやすくなる。その解明のために、日本人とアメリカ人を対象にクラウドソーシングの web 上の質問紙による調査を行った。調査と分析の結果、予測と一貫し、労働市場の流動性の高さは Prestige リーダーシップの発生のしやすさを媒介し、昇進における成果・能力主義傾向は Prestige リーダーシップの発生のしやすさと労働市場の流動性の高さの間を媒介した。以上の結果から、労働市場の流動性の高低により生じる適応課題によっては昇進時にどれだけ成果・能力が重視されるかが異なり、さらにそれによって高地位者が知識やスキルを保有することが前提となる階層構造をもとにしたリーダーシップがどれだけ発生しやすいかが異なることを示した。